

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520240

研究課題名(和文) 読書環境の歴史調査に基づいた近代文学の研究・教育方法の構築

研究課題名(英文) The study on the new method of literary study and education based on the research about the history of readers' circumstances

研究代表者

和田 敦彦 (WADA, Atsuhiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90283225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、読書環境の近代史を、主に書籍や雑誌の流通、受容という観点から明らかにし、あわせてその研究方法を文学研究・教育の新たな方法として体系化していくことをねらいとしている。そのために、国内外での書籍流通と読者について調査を実施した。国内では特に沖縄県、長野県における書籍流通の実態を解明した。また、海外では東南アジア地域、特にベトナム、インドネシアでの日本語圖書の流通・受容について明らかにした。また、これらの成果を著書や論文として刊行し、文学研究における新たな研究・教育方法を提案していくこととした。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to study the distributions and readers' receptions of books and magazines in modern Japan, and through these studies, clarify the history of readers' circumstances. In addition, the potential of this research method is to be considered and systematically refined in this project. For this aim, I have researched the histories of book distribution in Nagano prefecture and Okinawa prefecture. Not only the researches in Japan, I have also studied the distributions and receptions of Japanese publications in Southeast Asian countries, and produced results particularly in Vietnam and Indonesia. Based on these research experiences, I formed new method of studying readers' history, and published books and papers to indicate the potential of the method.

研究分野：日本近代文学

キーワード：読書論 出版史 日本近代文学 蔵書論 リテラシー

### 1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、読書や読者についての研究を、主として日本近代文学研究とのかわりの中で行ってきた。読書論についてのこれまでの内外の研究を調査、分析し、読者を研究する意義、方法についての研究を公開してきた。

どのような書物であれ、それが読者に届かなくては意味をなさない。しかし、読者をめぐる諸研究の中でも、こうした書物の流通する仕組みや、書物と読者を媒介する人々、組織についての研究は十分なされてきていない。このため、国内外の地域を対象として、そこでどのように書物が流通し、所蔵され、読まれてきたのか、ということ調査テーマとすることとなった。海外については、特にそれまで北米を中心とした調査を行って成果をあげてきていた。本研究でも当初北米を主要な研究対象としていたが、同地域の日本語蔵書の歴史については解明が進めば、北米以外の地域での調査を視野に入れていくことも考えていく必要があった。

### 2. 研究の目的

本研究で目的としているのは、近代における読書環境の歴史的な変化を明らかにしていくことであり、かつ、それらの調査、研究を、近代文学の研究・教育方法として応用し、普及させていくことにある。近代の文学研究では、これまで文学の制作者、すなわち作者や、その作品の研究に主眼がおかれてきたが、書物を流通し、販売するシステムや、読む環境の変化が十分になされてはいない。読書環境の近代史を調べること、学ぶことが、いかに文学の研究や教育において重要、かつ有効であるかを、実践的な研究事例をもとに明らかにしていく。

より具体的には、1) 日本における近代の読書史を明らかにするための資料調査・研究を行う。2) 海外の日本語蔵書調査によって、日本語図書海外での流通・受容を調査・研究する。3) 1) 及び 2) の研究成果を、文学研究・教育に生かすために体系化し、公開していく。これら三つの目的をもっている。

### 3. 研究の方法

本研究では、1) 日本における近代の読書史を明らかにするための資料調査・研究を行う。2) 海外の日本語蔵書調査によって、日本語図書海外での流通・受容を調査・研究する。3) 1) 及び 2) の研究成果を、文学研究・教育に生かすために体系化し、公開していく。これら三つの目的をもっている。

研究方法として、1) については国内での近代の読書関連資料の収集、分析に基づき、読書環境の歴史についての研究を進める。特に本研究では、長野県の明治期の出版史料、沖縄県については占領期の教科書関連出版史料の収集、整備、分析を行う。2) については、海外における日本語蔵書の形成や流通

状況、その読書環境の歴史を調査、研究し、その知見をもとに日本の読者、読書環境の分析を行う。北米地域の日本語図書所蔵調査の解明が進んだため、日本とも関係が深く、かつ、まだ情報の整備されていない東南アジア地域について、資料調査を進める。3) については、これらの読者や読書環境の調査、研究の実践をもとに、文学研究としての有効性や文学教育の中での意義について明らかにし、著書、研究報告などで広く情報発信を行っていく。

### 4. 研究成果

本研究の目的は、読書の歴史研究を進め、その成果を文学研究、および国語教育の領域において有効に活用していく手法を確立していくことである。そのために、蔵書の形成や書籍の流通についての歴史調査、事例研究を具体的に実施し、さらにその成果をもとにして、文学研究・教育の現場へと生かす方法について研究し、実践する。

以上の目的のもと実施した本研究について、1) 日本における近代の読書史を明らかにするための資料調査・研究、2) 海外の日本語蔵書調査によって、日本語図書の海外での流通・受容を調査・研究、3) これら 1) 及び 2) の研究成果を、文学研究・教育に生かすために体系化し、公開していく活動、の以上三つに分けて以下、説明していきたい。

#### 1) 日本における近代の読書史を明らかにするための資料調査・研究

日本国内における近代の読書史について、本研究では、特に書籍が読者に至る経路やその変遷を明らかにしていく方法をとっている。書籍の流通システムやその変化については、具体的な地域での調査が必要だが、これまで資料的な調査が成されてきていない。特に本研究で焦点をあて、かつ成果をあげたのは、長野県、及び沖縄県についての調査である。

まず長野県については、長野県松本市高美書店所蔵の明治期書店営業資料について、整備と研究を進め、本研究期間中に整備を終了し、かつそのうちの重要資料群について出版社を通して翻刻・出版計画を実現していった。この書店については、本研究代表者は平成 18 年度から独自に調査を始めた。明治期の書店の出版・営業資料が大量に保管されていることはきわめて稀であり、重要な文化資料として整備を進めてきた。その調査はまた、東京を中心とした近代の書籍や新聞等の出版物が、長野県にいつ、どれだけ、どのように流通していったかを具体的に明らかにすることともなっていた。

資料の概要目録の作成を終え、約 4000 タイトルに及ぶその目録をもとに、重要な資料群を選定し、平成 25 年度には出版社とこれら資料の出版計画についての交渉を開始し、あわせてそれら資料群の分析を進めた。これ

らは平成 28 年度の刊行の予定となっている。

また、沖縄県については、主として終戦から占領期にかけての書籍流通について資料収集・研究を行った。沖縄県はこの時期、米国民政府の統治下にあつて、日本国内とは異なる出版物の流通・販売がなされている。しかしながら、この時期の同地域に関する流通はほとんど研究が存在せず、その実態が不明であった。これについて、本研究代表者は、主としてこの時期の教科書の流通・販売経路を調査し、日本国内で発行された教科書の沖縄への輸入、販売経路が、他の出版物を含めて重要な役割を負っていたことを明らかにしていった。

こうした日本国内での書籍流通の調査に加え、本研究期間内の成果として、古書店の役割についての調査がある。古書店は、近代の書籍流通を考えるうえで、新刊書店に劣らず重要な役割を負ったと考えられるが、体系的な研究や調査が十分なされていない。このため、古書店の歴史に関する研究を展開、古書店員の日記の翻刻・刊行を行い、古書店の事例研究とすることができた。

## 2) 海外の日本語蔵書調査によって、日本語図書の海外での流通・受容を調査・研究

本研究では、日本国内のみならず、日本語図書が海外へどれだけ、どのように流通していったかをも研究の範囲としている。それによって、日本の出版物が海外でどのように受容され、どういった読書がなされていたかが明らかになるためである。日本の書物の読者は、日本国内のみで考えられるべきではない。読者は国境を越えて世界各地に存在し、日本国内とは異なる読者や読書環境が生まれているからである。そして本研究は、この問題について、各地に残された日本語図書の蔵書調査を通して研究する方法をとっている。

本研究は、当初はこれまでに研究代表者が行ってきている北米での日本語図書蔵書の歴史について、継続的に調査を行っていく予定であったが、これまでの研究でかなりの部分が明らかになったため、平成 25 年度から、研究の焦点を、いまだ調査されていない国へと移した。具体的には、国内外の機関の協力をあおぎ、東南アジア各国における日本語蔵書史、日本語図書の読書環境の調査を進めていくこととなった。

平成 25 年度には、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、シンガポールの五ヶ国を調査、日本語図書を所蔵する 22 の機関について調査を行った。そしてこれら東南アジア地域での日本語蔵書の歴史や日本語図書館の現状について、国立国会図書館と国際交流基金とで調査の報告を兼ねた講演を同年度に行った。また、平成 27 年度には、カンボジアの 6 機関での調査を行った。

これらの日本語蔵書のうち、ベトナムについては平成 25 年度から 27 年度まで、毎年度継続的な調査を行い、インドネシアについて

は 27 年度に再調査を行った。ベトナムでは、特にベトナム社会科学院(Vietnam Institute of Social Sciences)の所蔵する日本語資料の調査を、当該機関との協力のもとで行った。この調査成果が認められ、平成 27 年度からは国文学研究資料館の協力を得て、共同研究の形で長期的な調査体制を整えることが可能となった。また、インドネシアについては、インドネシア国立図書館に貴重書として所蔵されていた日本語資料について、当該機関の協力のもと、目録作成を行っていくこととなった。このため、平成 27 年度にはそれら蔵書の書誌情報をまとめるために、資料の撮影を実施し、作業を完了し、約 1400 冊分の書誌データ作成を進めており、平成 28 年度には目録データの公開を予定している。

これらの調査・研究を通して、東南アジア地域への日本語図書の流通、受容について、その歴史を解明していく研究基盤を作り上げることが可能となった。各地の日本語蔵書の内容、蔵書形成の歴史を今後解明していくことにより、日本の文化・情報がどのような形で近代の東南アジア地域に影響を与えてきたのかが明らかになっていく。

## 3) これら 1) 及び 2) の研究成果を、文学研究・教育に生かすために体系化し、公開していく活動

本研究では、上記の 1) 及び 2) で実践してきた読者や読書環境の歴史についての調査・研究をもとに、その研究が文学研究とどうかかわり、そこにどのような可能性をもたらすのかも研究の課題としている。そのため、上記 1) 、 2) で行った研究の方法論や意義を、文学研究との関わりのもとで位置づけ、その有効性を説明し、広く発信していく活動をあわせて行ってきた。

平成 25 年度には、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で行われていた研究プログラムと協力・連携する形で、日本文学研究と読書・出版の歴史研究を結びつけた教育プログラムを構想し、そのプログラムを大学院生を対象として試行的に授業を試みた。また、その内容をもとに、大学生を含めたわかりやすいテキストを作成し、出版社から刊行する準備を進め、平成 26 年度には著書『読書の歴史を問う 書物と読者の近代』の形で刊行し、体系的な教育、研究の実践方法として提案することが可能となった。平成 26 年度、27 年度と、このテキストを用いた授業実践案を構築し、早稲田大学、東京大学、立教大学の大学院生を対象として、教育実践を行い、受講者との討議をもとに、教育方法の深化につとめた。また、こうした研究・教育実践を通して、読書の歴史研究の方法が、国語教育・特に国語教材史や教科書史に有効な視点を提供し得ること、また情報を理解し、判断する力を養うメディア・リテラシーや図書館学に対しても有効であることを示してきた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

和田敦彦、ベトナム社会科学研究所蔵・旧フランス極東学院資料 共同研究と調査の進展、リテラシー史研究、査読無、9号、2016、1-8

和田敦彦、ベトナム社会科学研究所蔵・旧フランス極東学院資料、リテラシー史研究、査読無、7号、2014、23-28

和田敦彦、教科書史・教材史と読書研究 端緒としての沖縄、早稲田大学国語教育研究、査読有、33巻、2013、41-50

和田敦彦、調べ方の今昔から学ぶ、教える 図書館情報講習の活用体験から、ふみくら、査読無、82巻、2013、2-3

和田敦彦、図書館という 函、ふみくら、査読無、83巻、2013、2-3

〔学会発表〕(計3件)

和田敦彦、海外の日本研究と日本の図書館の役割 北米、及び東南アジアの事例から、日本研究支援シンポジウム「海外の日本研究に対して日本の図書館は何ができるのか」、2014年1月30日、国立国会図書館

和田敦彦、東南アジア諸国にみる日本資料 その利用と提供、国際交流基金 JFIC ライブラリー講演会(招待講演) 2014年4月24日、国際交流基金

和田敦彦、Encouraging Immigration: Immigration Journals in Japan Before WWII, University of California Santa Barbara, Japan Foundation Summer Institute, 2013年6月1日、カリフォルニア大学サンタバーバラ校

〔図書〕(計3件)

和田敦彦 他、書籍文化とその基底、平凡社、2015年、356

和田敦彦、読書の歴史を問う 書物と読者の近代、笠間書院、2014年、286

和田敦彦 他、五十嵐日記 古書店の原風景 古書店員の昭和へ、笠間書院、2014年、326

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
和田敦彦研究室  
<http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html>  
リテラシー史研究会ホームページ  
<http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/index.html>  
JBC プロジェクト  
<http://www.f.waseda.jp/a-wada/jbcp/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

和田 敦彦 (WADA, Atsuhiko)  
早稲田大学・教育総合科学学術院・教授  
研究者番号：90283225

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：